

《第38回》県民による

指揮 松岡 究

独唱 ソプラノ 佐田山 千恵
メゾソプラノ 塩崎 めぐみ
テノール 山本 耕平
バス 小鉄 和広

オーケストラ 県民による第九オーケストラ

合唱 県民による第九合唱団

曲目 第一部 4人のソリストによるアリア
第二部 ベートーヴェン作曲
「交響曲第九番ニ短調 Op.125 (合唱付)」

米子公演

2025年11月30日(日)

14:00開演(13:15開場) 16:30終演予定

米子市公会堂大ホール

9月1日(月) 10:00から
チケット販売開始

《一部指定席あり》

入場料

指定席 2,500円(米子市公会堂のみで販売)
自由席 2,000円(当日2,500円)
高校生以下 1,000円《自由席限定》(当日1,000円)

※ 未就学児は入場できません

主催/県民による第九公演実行委員会・第九米子公演推進委員会

共催/鳥取県文化団体連合会

協賛/第九米子公演を育てる会

後援/鳥取県・米子市・鳥取市・倉吉市・境港市・大山町・南部町・伯耆町・日吉津村・日南町・日野町・江府町・鳥取県教育委員会・

米子市教育委員会・鳥取市教育委員会・倉吉市教育委員会・境港市教育委員会・大山町教育委員会・南部町教育委員会・伯耆町教育委員会・

日吉津村教育委員会・日南町教育委員会・日野町教育委員会・江府町教育委員会・NHK 鳥取放送局・BSS 山陰放送・日本海テレビ・

TSK さんいん中央テレビ・中海テレビ放送・エフエム山陰・テレビ朝日鳥取支局・新日本海新聞社・山陰中央新報社・朝日新聞鳥取総局・

毎日新聞鳥取支局・読売新聞鳥取支局・共同通信社鳥取支局・公益財団法人鳥取県文化振興財団・鳥取県西部合唱連合・鳥取県オーケストラ連盟・

鳥取県吹奏楽連盟・米子ユネスコ協会・一般財団法人米子市文化財団・DARAZ FM

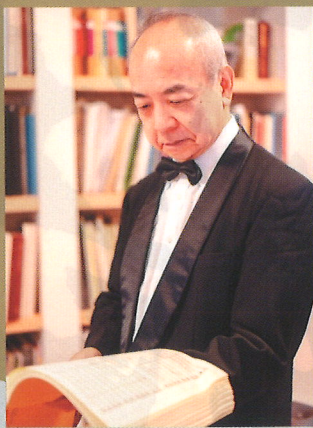
チケット取扱所 米子市公会堂・米子市文化ホール・米子市淀江文化センター・境港市文化振興財団(境港市文化ホール内)
境港市民交流センター(みなとテラス)・安来市総合文化ホール アルテピア・アルテプラザ(イオン米子駅前店4階)

お問い合わせ 第九米子公演推進委員会事務局 米子市東福原7-6-43 TEL.0859-31-1266

●当日はできるだけ公共交通機関をご利用ください。

●駐車場のご案内 米子市役所駐車場(6時間無料)、ひまわり駐車場(1時間無料)、YEASTYPLACE(旧えるもーるパーキング)(1時間無料)無料処理をしますので、必ず駐車券をお持ちください。

●託児室は用意しておりませんのでご了承ください。



指揮者 松岡 究

Hsueh-shan Matsuo

指揮を小林研一郎、ヨルマ・バヌラ、ランベルト・ガルデリに師事。音楽学を戸口幸策に師事。1991年文化庁在外派遣研修員としてハンガリーに留学。その間スウェーデン・アルコンスト音楽祭にヨルマ・バヌラより招待されタリン国立歌劇場管を指揮。「卓越した才能」と激賞された。2004年～2007年にかけてローム・ミュージック・ファンデーションの音楽特別研究員としてベルリンにて研修。

1987年～2008年東京オペラプロデュース指揮者としてグノー「ロメオとジュリエット」等10以上のオペラの日本初演を指揮し、「極めてバランス感覚に富んだ逸材」「オケから耽美的な音色を引き出し抜群」等新聞各紙、音楽雑誌等で絶賛された。このほかにも日本ロッシェニ協会の「ランスへの旅」(日本人初演)やブリテン「ねじの回転」(新国立劇場)などでも高い評価を得た。

2009年～2012年日本オペレタ協会音楽監督。2009年東京ユニバーサルフィル専任指揮者、2012年から常任指揮者に就任。また2023年4月から大阪府茨木市を本拠地とするアマービレフィルハーモニー管弦楽団(20015年創立)の音楽監督兼常任指揮者に就任。

米子第九とは1990年に「第九」を指揮した後も、1995年からは合唱団を定期的に指導、第九公演のない年にモーツァルト、フォーレ、J.ラターのレクイエム、ロッシェニのスターバート・マーテル、ヘンデルのメサイアなど数々の宗教曲を指揮し、鳥取県の音楽文化の向上の一役を担ってきた。第九米子公演の指揮は今回で12回目となる。



ソプラノ

佐田山 千恵

Chie Sadayama

鳥取県米子市出身。イタリアへ留学しミラノ市立音楽学院における声楽と歌唱表現のコースを最高位で修了、ディプロマを取得。その後ロンドンに渡り更なる研鑽を積む。これまで海外での演奏歴が多数あり、イギリス・ウィンザー城でのチャールズ国王主催パーティーにて歌い讃辞を受けたほか、オランダでの音楽祭等にソリストとして出演。世界三大教育音楽祭とされる“PMF 2010”にて、ファビオ・ルイーザ指揮『ラ・ボエーム』のミミ役に抜擢されオペラデビュー。2023年には藤原歌劇団オペラ『トスカ』タイトルロールで本公演デビューし、その他『蝶々夫人』及び『椿姫』タイトルロール、『カルメン』ミカエラ役、『フィガロの結婚』伯爵夫人役等、数多くのオペラに主要キャストで出演し、高い評価を得ている。東京フィルハーモニー交響楽団、大阪交響楽団、京都フィルハーモニー室内合奏団との共演や、韓国国営放送KBSに出演、出身地の鳥取県にて定期的にコンサートを企画開催する等、国内外で幅広く活動している。「琴線に触れる声」と称され、華麗な舞台姿とテクニックで聴衆を魅了し、その揺るぎない実力は音楽誌やメディアにて絶賛されている。とっとりふるさと大使に就任。藤原歌劇団団員、日本オペラ協会会員。



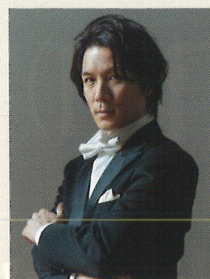
メゾソプラノ

塩崎 めぐみ

Megumi Shiozaki

鳥取県出身。鳥取大学農学部農林総合科学科卒業。武蔵野音楽大学大学院声楽専攻修了。新国立劇場オペラ研修所修了。平成23年度文化庁在外研修員としてベルリンで研鑽を積む。

2012年Opera Classica Europa公演『リゴレット』マッダレーナでドイツデビューを飾る。さらに同年ロンドンSoho Theatre公演オペラ“Finding Butterfly”(オペラ『蝶々夫人』より)スズキに出演。Pacific Music Festival 2014にて『ナクソスの島のアリアドネ』作曲家で出演。東京・春・音楽祭『ワルキューレ』グリムゲルデ、二期会『ダナエの愛』アルクメーネ、同く三部作『外套』フルーゴラ、『修道女アンジェリカ』修道院長、『ジャンニ・スキッキ』チェスカ、同『天国と地獄』世論、同『ファルスタッフ』クイックリー等に出演、表現豊かな歌唱で好評を博す。『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『仮面舞踏会』ウルリカ、『ムツェンスク郡のマクベス夫人』ソニエートカ、『カルメル会修道女の対話』マリ等多くの作品に出演を重ねる。23年新国立劇場『修道女アンジェリカ』修道院長出演、本年7月には兵庫芸術文化センター『さまよえるオランダ人』マリで出演。『第九』等コンサート・ソリストとしても活躍している。二期会会員



テノール

山本 耕平

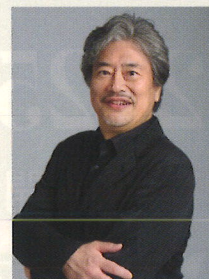
Kohhei Yamamoto

鳥取県米子市出身。東京藝術大学卒業。同大学大学院修了。ミラノ・ヴェルディ音楽院修了。イタリア声楽コンコロソ第1位、日伊声楽コンコロソ第1位、第10回エネルギー音楽賞、第25回五島記念文化賞・オペラ新人賞、文化庁新進芸術家海外研修生選出など受賞多数。令和4年度には第1回となる鳥取文化奨励賞を受賞した。

『椿姫』『ラ・ボエーム』『ドン・カルロ』などイタリアオペラに多く出演する他、近年では『ドン・ジョヴァンニ』をはじめとするモーツァルト作品や、『ルル』『午後の曳船』などドイツ語による近現代音楽作品、邦人作曲家による新作オペラ上演等に於いても高い評価を得ている。

本年は東京オペラシティ主催の人気リサイタルシリーズ「B→C パッハからコンテンポラリーへ」のアーティストに選出され、11月にはフランスの巨匠ベルリオーズの名作『ファウストの劫罰』にファウスト役に出演が予定されるなど活動の幅を広げている。翌2月にはしまね県民コンサート2026「カルミナ・ブラーナ」テノールソロに登場予定。

洗足学園音楽大学講師(声楽およびイタリア歌曲講座)。東京二期会会員。米子市ふるさとPR大使、とっとりふるさと大使。



バス

小鉄 和広

Kazuhiro Kotetsu

1961年、鳥取県境港市に生まれる。東京藝術大学卒業及び同大学院修士課程修了。文化庁研修員等として留学。イタリア声楽コンコロソ・シエナ部門優勝。イタリアにてヴェルディ「アッティラ」表題役、マケドニアにてヴェルディ「アイーダ」国王、国内ではモーツァルト「魔笛」ザラストロ、「フィガロの結婚」フィガロ、ワーグナー「パルジファル」グルネマンツ等、主要な役多数にて高い評価。新国立劇場、東京文化会館、日生劇場、びわ湖ホール等に出演、NHK交響楽団等、主要オーケストラと共演。演出家としてはマケドニアにて團伊玖磨「夕鶴」、国内ではモーツァルト「フィガロの結婚」等。現在、東京グラネッツ室内オーケストラ常任指揮者。

2023年にはマケドニアのビトラ音楽祭に招聘され、ビトラ室内オーケストラと共演してバスリサイタル。2024年には首都スコピエの国立歌劇場でリサイタルをおこない、同年末には国立劇場でのコンサートに客演。2025年2月には著名なマケドニア文化紹介者としてスタジアムでのイベントで「金でてんとう虫」を受賞、6月には日本から女声合唱団を率いコンサート。東京オペラ代表取締役。



県民による第九公演について

1985(昭和60)年、わかつり国体の合唱隊・音楽隊において「歓喜の歌」を演奏曲目の一つに加えたことから、この交響曲全曲の公演を鳥取県民の手によって実施しようという機運が高まり、国体終了後の11月に演奏会を開催した。これを契機に県内各地にて毎年継続的に演奏会が行われ、このたび通算38回目の公演を実施する運びとなった。(米子公演は15回目)

これまで県西部の音楽文化の普及・向上に大きな役割を果たしてきた「第九米子公演」、今回も公募によるオーケストラ・合唱団のメンバーが練習を重ねて、公演の日を迎えようとしている。